

令和6年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習 I	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約40年	担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1、筋の基本的構造と筋収縮の生理が理解できる。 2、筋機能としての筋力が理解できる。 3、徒手筋力検査の理論が理解できる。 4、主要な筋の徒手筋力検査が実施できる。			評価方法			
授業概要	理学療法評価の基礎となる筋力測定方法の概要とその実施を習得する。			期末試験(筆記試験、実技試験) 50% 中間試験(口頭質問、実技試験) 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	新・徒手筋力測定法 第10版	使用器材	パソコン、ビデオ、配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	徒手筋力テストの概要						
第2週	肩関節 MMT						
第3週	肩甲帯 MMT						
第4週	肘・前腕 MMT						
第5週	手関節 MMT 上肢のまとめ						
第6週	中間試験1(口頭質問、実技試験) 上肢						
第7週	股関節 MMT						
第8週	膝関節 MMT						
第9週	足関節 MMT 下肢のまとめ						
第10週	中間試験2(口頭質問、実技試験) 下肢						
第11週	体幹(頭頸部) MMT						
第12週	体幹(胸腰部) MMT 頭頸部、胸腰部のまとめ						
第13週	中間試験3(口頭質問、実技試験) 体幹(頭頸部、胸腰部)						
第14週	顔面 MMT						
第15週	まとめ 国家試験問題解説、試験対策						
授業外 学習指示等	運動学を復習しておきましょう						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約40年	担当者	河元岩男	授業方法	講義・実習	単位数	1
到達目標	1. バイタルサインを理解でき実施できる。 2. 痛みの評価、知覚検査を理解し実施できる。 4. 深部腱反射・病的反射を理解し実施できる。 5. バランステストを理解し実施できる。 6. 筋トーンス検査を理解し実施できる。			評価方法			
授業概要	各検査における正常生理、検査の目的・理論的背景を解説したうえで、実技を行います。また、得られた情報の解釈についても学びます。			期末試験(筆記試験、実技試験) 60% 確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学 第6版	使用器材	検査器具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	バイタルサイン-1 P39～						
第2週	バイタルサイン-2						
第3週	痛みの評価-1 P119～						
第4週	痛みの評価-2						
第5週	確認テスト1						
第6週	知覚検査-1 P126～						
第7週	知覚検査-2						
第8週	深部腱反射・病的反射-1 P133～						
第9週	深部腱反射・病的反射-2						
第10週	確認テスト2						
第11週	バランステスト P147～						
第12週	バランステスト						
第13週	バランステスト						
第14週	筋トーンス検査 P148～						
第15週	まとめ 試験対策						
授業外 学習指示等	解剖学、運動学、生理学と関連付けて学習していきましょう。						

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅲ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約40年	担当者	河元 岩男	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 整形外科検査を理解し実施できる。 1. 協調性検査を理解し実施できる。 2. 片麻痺機能検査を理解し実施できる。 3. 脳神経検査を理解し実施できる。 4. 高次脳機能検査を理解し実施できる。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患の理解。また、中枢神経系の解剖と生理を確認し、中枢神経障害の機能障害を理解したうえで各検査が実際にできるようにすすめます。また、得られた結果を解釈できるように学びます。			定期試験(筆記試験、実技試験) 60% 確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学 第6版 病気がみえる 第2版 脳と神経	使用器材	検査器具一式				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	整形外科検査-1 P195～						
第2週	整形外科検査-2						
第3週	整形外科検査-3						
第4週	整形外科検査-4						
第5週	確認テスト1						
第6週	協調性検査-1 P253～						
第7週	協調性検査-2						
第8週	片麻痺機能検査-1 P261～						
第9週	片麻痺機能検査-2						
第10週	確認小テスト2						
第11週	脳神経検査-1 P290～ 病気がみえる 脳と神経						
第12週	脳神経検査-2						
第13週	高次脳機能検査-1 P301～ 病気がみえる 脳と神経						
第14週	高次脳機能検査-2						
第15週	まとめ 試験対策						
授業外学習指示等	整形外科、神経系の学習を復習しておきましょう。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	臨床運動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて歩行疾患患者への訓練指導経験有り	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常歩行について歩行周期を踏まえ説明できる。 2 歩行パラメータの計測ができる。 3 異常歩行について特徴を理解し説明ができる。			評価方法			
授業概要	歩行に関する知識を深め、歩行観察・分析ができるよう学習する。			期末試験 100%			
教科書等	観察による歩行分析	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション・正常歩行について						
第2週	歩行周期と各相について						
第3週	正常歩行周期の実技練習						
第4週	実技テスト(正常歩行周期各相における実技と説明)						
第5週	歩行パラメータの計測方法・歩行する身体の基本的な見方						
第6週	パッセンジャーとロコモーターについて						
第7週	ロッカーファンクションについて						
第8週	正常歩行観察						
第9週	正常歩行分析 ①						
第10週	正常歩行分析 ②						
第11週	異常歩行について						
第12週	異常歩行の観察・実技 ①						
第13週	異常歩行の観察・実技 ②						
第14週	国試対策(臨床運動学分野)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	画像読影	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	CT・MRI画像を診て理学療法治療に活かす経験18年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. レントゲン写真を見て読影ができる。 2. CT・MRI画像などの画像を見て、障害の程度を知る事ができる。			評価方法			
授業概要	解剖学・整形外科学・内科・外傷学・病理学等の基礎的知識に基づいて、画像読影に必要な知識の整理と理解を確認する。次に、画像から病名を診断できるよう学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎から学ぶ 脳画像の読み方	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳画像読影の基礎知識・脳画像の基本						
第2週	磁気共鳴血管画像(MRA)での中大脳動脈閉塞画像・後大脳動脈閉塞						
第3週	脳梗塞・脳出血・その他の脳画像①						
第4週	脳梗塞・脳出血・その他の脳画像②						
第5週	脊柱の画像: 頸椎椎間板ヘルニア頸椎症性脊髄症・その他の脊柱画像①						
第6週	脊柱の画像: 頸椎椎間板ヘルニア頸椎症性脊髄症・その他の脊柱画像②						
第7週	脊柱の画像: 頸椎椎間板ヘルニア頸椎症性脊髄症・その他の脊柱画像③						
第8週	上肢・下肢の画像: 肩甲骨骨折・鎖骨骨折・その他の骨折画像①						
第9週	上肢・下肢の画像: 肩甲骨骨折・鎖骨骨折・その他の骨折画像②						
第10週	上肢・下肢の画像: 肩甲骨骨折・鎖骨骨折・その他の骨折画像③						
第11週	内臓: 無気肺・結核・心タンポナーデ・その他の画像①						
第12週	内臓: 無気肺・結核・心タンポナーデ・その他の画像②						
第13週	国家試験過去問の画像問題①						
第14週	国家試験過去問の画像問題②						
第15週	国家試験過去問の画像問題③						
授業外学習指示等	より多くの画像をみて、正常像・異常像の理解をしておく。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	日常生活活動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. ADLについて理解し、バーセルインデックスやFIMを使ってADLの評価ができる。 2. 黄本的動作について学び、動作観察や動作分析が説明できる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する知識を深める。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ADLの概念と範囲について						
第2週	日常生活活動の評価について①						
第3週	日常生活活動の評価について②						
第4週	動作観察と動作分析について						
第5週	ADL評価の実際(バーセルインデックス)						
第6週	ADL評価の練習(バーセルインデックス使用)						
第7週	ADL評価の実際(FIM)						
第8週	ADL評価の練習(FIM使用)						
第9週	補装具について						
第10週	杖・松葉杖の調整法について						
第11週	杖・松葉杖の調整法の練習						
第12週	車椅子の種類と構造・メンテナンス方法						
第13週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)①						
第14週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)②						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	日常生活活動学実習	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当者	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 各疾患でのADLでの問題点を抽出し、ADL訓練ができる。 2 起居動作や移動動作における問題点を動作観察・分析から説明できる。 3 適切な移乗介助ができる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する実技の習得。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	ベッド、車椅子、松葉杖、一本杖				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	基本動作について実技(寝返り動作:背臥位⇔腹臥位)						
第2週	基本動作について実技(背臥位からの座位への起き上がり動作)						
第3週	基本動作について実技(椅座位からの立ち上がり動作)						
第4週	基本動作について実技(床からの立ち上がり動作)						
第5週	歩行指導(杖歩行含む)						
第6週	ADLを支援する機器						
第7週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(片麻痺編)						
第8週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(パーキンソン病編)						
第9週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(頸髄・脊髄損傷編)						
第10週	疾患別ADL指導:関節リウマチ患者のADL						
第11週	疾患別ADL指導:大腿骨頸部骨折患者のADL						
第12週	疾患別ADL指導:変形性膝関節症・大腿切断患者のADL						
第13週	車イス動作実技(キャスター上げ含む)						
第14週	トランスファー実技全般						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	物理療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床で扱う物理療法機器の原理、効果を学ぶ。 疾患別に適応と禁忌を学ぶ。 治療器ごとの特徴と特性を学ぶ。			評価方法			
授業概要	物理の理論を理解して、各物理的な療法、各治療器の使用法、注意点、適応などを学ぶ。			期末試験 60% 中間試験 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト 物理療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	物理学の復習						
第2週	温熱療法 ① ホットパック						
第3週	温熱療法 ② パラフィン						
第4週	温熱療法 ③ 超短波、極超短波、超音波						
第5週	小テスト1 授業アンケート						
第6週	寒冷療法 ① アイスマッサージ						
第7週	寒冷療法 ② 極低温療法						
第8週	光線療法 紫外線、赤外線、レーザー						
第9週	水治療法 ① 過流浴、気泡浴						
第10週	水治療法 ① ハバードタンク						
第11週	小テスト2 授業アンケート						
第12週	電気療法 ① 低周波						
第13週	電気療法 ① 干渉波						
第14週	牽引療法 頸椎、腰椎						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	神経内科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	神経筋疾患の多様な症状と病理を理解し、理学療法展開の基礎を構築する。			評価方法			
授業概要	神経筋疾患の多様な症状と病理の解説			試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学	使用器材	液晶プロジェクター 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第5章 意識障害、脳死、植物状態		第6章 頭痛、めまい、失神				
第2週	第8章 錐体外路徴候、不随意運動		第9章 運動失調				
第3週	第10章 感覚障害		第11章 高次脳機能障害:総論・失語症				
第4週	第12章 高次脳機能障害:失認		第13章 高次脳機能障害:失行				
第5週	第13章 高次脳機能障害:失行		第14章 高次脳機能障害:記憶障害				
第6週	第15章 高次脳機能障害:注意障害		第16章 高次脳機能障害:遂行(実行)機能障害				
第7週	第17章 構音障害	第18章 嚥下障害	第19章 頭蓋内圧亢進				
第8週	試験						
第9週	第20章 脳血管障害						
第10週	第21章 認知症						
第11週	第22章 脳腫瘍						
第12週	第25章 変性疾患(錐体外路系を除く)、脱髄疾患						
第13週	第26章 錐体外路の変性疾患		第27章 末梢神経障害				
第14週	第29章 筋疾患						
第15週	第30章 感染性疾患		第31章 中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患				
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法学演習 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	松本和代	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1)生理学・解剖学の知識を関連付け国家試験問題のキーワードについて説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学、生理学、運動学で学んだ知識を関連付けながら、国家試験問題を解きながら理解を深めます。			定期試験 50% 単元試験 50% 成績評価は授業ごとの要点をまとめた授業範囲の単元試験と定期試験の総合により評価する。 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学	使用器材	パワーポイント、配布資料、生理学、解剖学の教科書				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	循環器系1 (p2～p38)						
第2週	循環器系2 (p2～p38)						
第3週	循環器系3 (p2～p38)						
第4週	循環器系4 (p2～p38)						
第5週	呼吸器系1 (p39～p54) 単元試験1						
第6週	呼吸器系2 (p39～p54)						
第7週	呼吸器系3 (p39～p54)						
第8週	消化器系1 (p55～p76) 単元試験2						
第9週	消化器系2 (p55～p76)						
第10週	消化器系3 (p55～p76)						
第11週	泌尿器系1 (p77～p94) 単元試験3						
第12週	泌尿器系2 (p77～p94)						
第13週	代謝系 (p95～p104)						
第14週	内分泌系 (p105～p120)						
第15週	中枢神経系 (p122～p194)						
授業外学習指示等	解剖学、生理学、運動学のテキストで予習しておきましょう。						

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	義肢装具学	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	病院で義肢装具のチェックアウト等の経験有り	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やすことができる。 2. 臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。 3. 義肢装具の使用方法を理解し、実際に装着することができる。			評価方法 期末試験 60% 単元試験 40% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	義肢装具に関する基本的事項を学習し、義肢装具の特性と構造を紹介する。 国家試験の過去問を授業に取り入れ、理解を深める。						
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト義肢装具学	使用器材	パソコン 配布資料、四肢の義足と装具、体幹装具 自助具、四肢の断端モデル、切断部包帯シュミレータ				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	オリエンテーション 装具学総論(装具および装具療法とは、対象疾患、装具の目的、装具の機能など)						
第2週	下肢装具の部品とその機能(支柱、半月とカフベルト、ロック、継手、足部など) 短下肢装具(短下肢装具の目的と対象となる障害、主な短下肢装具の種類など)						
第3週	長下肢装具・股装具・膝装具(長下肢装具の目的と対象疾患、長下肢装具の種類など) 靴型装具(靴型装具の目的、靴型装具の適応となる疾患など)						
第4週	下肢装具のチェックアウト(下肢関節の解剖学的特徴と装具継手、運動軸と継手軸など) 下肢装具のチェックアウト実習(装具歩行の体験、装具装着体験)						
第5週	単元試験1 体幹装具・側彎症装具(体幹装具の目的や適応疾患、装具による側弯の矯正力など)						
第6週	上肢装具と自助具(上肢装具とスプリント、上肢装具の目的・原則・分類など) 脳卒中片麻痺の装具(脳卒中片麻痺の治療における装具の意義や使用目的など)						
第7週	整形外科疾患の装具(骨折用治療用装具、免荷装具など) 関節リウマチ・対麻痺・小児の装具(関節リウマチに対する装具、対麻痺の装具など)						
第8週	単元試験2 切断と義肢の基礎知識(切断の疫学、義肢の種類、切断後リハビリテーションの流れなど)						
第9週	早期義肢装着法と義足適合の流れ(早期義肢装着法とアライメントの概念など) 大腿切断・膝離断の基本と義足構造(大腿切断の断端と大腿義足の特徴、ソケットなど)						
第10週	大腿切断・膝義足のアライメント(ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントなど) 股離断・片側骨盤切断・足部切断(股義足の適応と特徴、カナダ式股義足アライメントなど)						
第11週	単元試験3 下腿切断・サムイ切断の義足構造(サイム切断の特徴、サイム義足のソケットなど)						
第12週	下腿切断・サムイ切断のアライメント(ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントなど) 下肢切断の評価(下肢切断の評価項目、切断肢以外の評価の重要性など)						
第13週	下肢切断の義足装着前理学療法(立位バランスと歩行練習など) 義足装着理学療法と応用動作(アライメントチェックアウトと義足装着理学療法など)						
第14週	単元試験4 先端技術を応用したリハビリテーション医療						
第15週	先端技術を応用した義肢装具						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	整形外科Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験13年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解できる。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解できる。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解できる。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解できる。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患の実際をテーマに各論を学ぶ。 各部位ごとに発生する疾患の原因、症状、検査、診断、治療、 リハビリテーションの実際を学ぶ。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	整形外科Ⅱ 総論						
第2週	胸郭(鎖骨骨折、肋骨骨折、胸郭出口症候群など)						
第3週	頸椎・脊椎(変形性頸椎症、頸部脊椎症性脊髄症・神経根症、頸椎後縦靭帯骨化症など)						
第4週	胸椎・腰椎(胸椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症など)						
第5週	腰椎・脊柱変形(腰椎分離症・腰椎分離すべり症、特発性側弯症、先天性脊柱変形など)						
第6週	単元試験1						
第7週	肩関節および上腕(肩関節の骨折・脱臼、肩関節周囲炎、腱板断裂、上腕骨骨幹部の骨折など)						
第8週	肘関節および前腕(上腕骨遠位端骨折、肘関節部の骨折・脱臼、上腕骨外側/内側上顆炎など)						
第9週	手関節および手指(手関節部の骨折、手指の骨折・脱臼、手根管症候群など)						
第10週	単元試験2						
第11週	骨盤・股関節および大腿(骨盤骨折、特発性大腿骨頭壊死症、大腿骨近位部骨折など)						
第12週	膝関節および下腿(変形性膝関節症、靭帯損傷、半月板損傷、膝関節の骨折・脱臼など)						
第13週	足関節および足(先天性内反足、扁平足、外反母趾、足関節部の骨折・脱臼など)						
第14週	単元試験3						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	授業内容に記載の疾患について、第1学年開講の整形外科Ⅰの講義内容を復習して臨むこと。 対象疾患の病態と機能障害の因果関係を理解すること。						

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	運動療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1、理学療法における運動療法の位置づけ、歴史的背景を説明できる。 2、運動療法の定義、目的、種類を説明できる。 3、関節可動域制限に対する理論と方法を説明できる。 4、筋力増強運動、持久力増強運動の理論と方法を説明できる。 5、協調性改善、神経筋再教育、運動学習の理論と方法を説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、運動療法を行う上で特に必要な基本的知識の整理と理解を再確認する。つぎに、関節可動域訓練、筋力増強訓練、持久力訓練、全身調整訓練、リラクゼーション協調運動訓練等、運動療法の基本的療法概念を学習する。			期末試験60% 小テスト40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動療法の概念(歴史、定義、理学療法のなかでの位置付け)						
第2週	運動療法の基礎1(結合組織・関節の構造と機能)						
第3週	運動療法の基礎2(筋・神経系の構造と機能)						
第4週	基本的運動(力源の違いによる分類、筋収縮の状態の違いによる分類)						
第5週	小テスト1(前回までの内容)、関節可動域運動(目的、種類)						
第6週	関節可動域運動1(関節可動域制限)						
第7週	関節可動域運動2(維持目的の方法と実際)						
第8週	関節可動域運動3(改善目的の方法と実際)						
第9週	筋力維持増強運動1(目的と適応、筋力とは、筋力維持増強に必要な基礎知識)						
第10週	筋力維持増強運動2(筋力増強運動の理論と実際)						
第11週	持久力増強運動(持久力とは、筋持久力、全身持久力、持久力増強の理論)						
第12週	小テスト2(第6週～11週の内容)、全身調整運動						
第13週	神経筋再教育と協調性の改善(運動の協調性とは、協調運動障害とは、改善の理論)						
第14週	運動学習						
第15週	国家試験問題の解説						
授業外学習指示等	解剖学、生理学を整理しながら学習しましょう。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	一般臨床医学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.健康と疾病の概念を説明できる。 2.外科の代表的な疾患について、病態、症状、治療法を説明できる。 3.泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻科の代表的な疾患について、病態、症状、治療法を説明できる。			評価方法			
授業概要	健康の概念(栄養含む)を理解し、現代社会に求められる健康の維持・増強に関する健康管理および疾病予防について学習する。また、救急医学の概要を理解するとともに、医療の現場で遭遇する一次救命処置についても学習する。			期末試験 60% 小テスト40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための一般臨床医学	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション ～ 一般臨床医学で学ぶこと、事例障害 ～						
第2週	外科総論① 機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患について						
第3週	外科総論② 末梢血行障害、腫瘍、臓器移植について						
第4週	リハビリテーション栄養 栄養状態、栄養管理、リハビリテーションに求められる栄養指導について						
第5週	脳神経外科概論 解剖、脳の主な病態生理、補助検査法、主な疾患						
第6週	小テスト①(第2回～5回までの内容)						
第7週	皮膚疾患 解剖・生理、病状・病態生理、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹などについて						
第8週	泌尿器疾患 解剖・生理、尿路感染症、腎不全、腫瘍、生殖器の疾患について						
第9週	産婦人科疾患 一般的な婦人科の問題、無月経と異常性器出血、女性器系の腫瘍について						
第10週	小テスト②(第7回～9回)						
第11週	眼科疾患 解剖・生理、眼の症状と徴候、感染症、白内障、緑内障、斜視と色覚異常について						
第12週	耳鼻科疾患 耳・鼻の構造、口腔・咽頭・喉頭の解剖、それぞれの疾患について						
第13週	救急救命医学 一次救命の手順、アルゴリズム、AEDの使用方法など						
第14週	小テスト③(第11回～13回)						
第15週	本試験対策、まとめ						
授業外学習指示等	教科書・配布資料を使って、予習・復習を行いましょう。						

令和6年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	薬理学の基礎	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	薬理臨床開発部で約15年勤務歴有り	担当者	有竹 浩介	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 薬物が作用する仕組みについて説明できる。 2 薬物の副作用について説明できる。 3 薬物が様々な疾患にどのように利用されているか説明できる。			評価方法			
授業概要	薬理学とは何か？について理解してもらい、どのような薬がどのような疾患に利用され、どのような作用と副作用を示すのかについて解説する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック薬理学・臨床薬理学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	薬物による病気の治療、薬理学・臨床薬理学とは何か リハビリテーションに活かす薬理学・臨床薬理学						
第2週	薬による疾患治療の本質						
第3週	薬を理解するために必要な基礎知識 薬とその標的						
第4週	薬の概念と分類						
第5週	薬の作用はどのように発揮されるのか 薬物の標的、薬物の用量と作用の関係、薬物の副作用						
第6週	生体内での薬の動き						
第7週	薬の作用に影響する因子 ヒトによる薬物の効き方の違い						
第8週	薬の使い方						
第9週	感染・炎症の制御と薬物療法						
第10週	神経疾患の薬物療法						
第11週	精神疾患の薬物療法						
第12週	循環器疾患の薬物療法						
第13週	疼痛の制御と薬物療法						
第14週	注意すべき頻用される薬物						
第15週	PTOT国家試験過去問題・まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						